

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土東小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の定着に個人差がある。 <指導上の課題> 国語の「主語・述語の理解」「目的に応じた適切な文章の読み取り、算数の「複数の数量から必要な数量を選んで立式する」ことについて、課題が見られる。	レディネス問題や適用問題を通して児童が何をどれだけ理解しているかを教師が把握するとともに、理解度に合った問題に取り組む機会を設ける。【単元・題材ごと】 書き込み式ドリルやドリルバークの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習を進めていくことができるよう指導する。【週に一度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 根拠となる部分を引用して自分の考えを具体的に書きこことに課題が見られる。 <指導上の課題> 教師が各教科等における「思考力、判断力、表現力等」に係る指導内容を明確化すること。 授業において、意図的・計画的に協働的な学びを通して考えたり、表現したりできることによる課題を設ける。【単元・題材ごと】 必要感があったり、児童の関心を高めたりする課題設定を行う。【毎時間】 思考・判断・表現に係る支援と評価を適切に行う。【毎時間】	根拠となる資料を基に、自己の考えをまとめる活動を充実させる。【毎時間】 授業において意図的・計画的に協働的な学びを通して考えたり、表現したりできるようにする機会を設ける。【単元・題材ごと】 必要感があったり、児童の関心を高めたりする課題設定を行う。【毎時間】 思考・判断・表現に係る支援と評価を適切に行う。【毎時間】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	児童生徒の学力の向上
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
	知識・技能	思考・判断・表現
	国語では、学年別配当表に示されている漢字を文の中で直しく書くことができるかどうかをみる記述式問題において課題がみられた。無回答率が高くなることから、文脈ではなく読み方で判断し誤った漢字を書いてしまっていることが考えられる。 算数では、数直線上での目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つごとに捉えることができるかどうかをみる短答式問題において課題がみられた。該当問題の前に単位分数についての説明があったうえでの解答であることから、児童が「分数は単位分数の幾つごとに捉える」とことを十分に理解できていないことが考えられる。 R7全国学力・学習状況調査の児童質問「分からないことやわくわくしたいことがあったときと、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか?」に対する肯定的な回答がとても多い。今後も、児童が主体的に学ぶ授業を展開するとともに、基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと習得させていく。	国語では、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる短答式問題において課題がみられた。長い問題文の中から適切な言葉を探し出すことで課題がみられたため、読書量を増やしたり、文と文との関係性を覚えるようになりますたりすることが重要であると考える。 算数では、基本图形に分割することができる图形の面積の求め方、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題において課題がみられた。問題文が長いため、設問の意味を正しく理解する読解力、また、自らの考え方を適切にアピールする表現力の向かが不可欠であると考える。 理科では、種子の発芽の条件について、差異点や共通点を整理し表現する基準に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる記述式問題において課題がみられた。無回答率は低いことから、差異点や共通点を整理し表現する(文書に)ことに課題があると考えられる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)  
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	レディネス問題や適用問題を通して児童が何をどれだけ理解しているかを教師が把握するとともに、理解度に合った問題に取り組む機会を設けることには、多くの教員が取り組んでいます。 書き込み式ドリルやドリルバークの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習を進めていくことができるよう指導する。一方で、児童によって書き込み式ドリルの取組に差があることやドリルバークの活用に課題がある。	ドリルバークの内容を確認して、授業内や家庭学習において活用すること(単元・題材ごと) 教員の見取りの方法の研究(随時)
思考・判断・表現	B	機器となる資料を基に、自己の考えをまとめる活動を充実させること、授業において意図的・計画的に協働的な学びを通して考えたり、表現したりできるよう機会を設けることについては、多くの教員が取り組んでいます。 必要感があったり、児童の関心を高めたりする課題設定を行うこと、思考・判断・表現に係る支援と評価を適切に行うことについては課題があるため、研修等を通して課題設定の工夫や指導と評価の一体化についての理解を深め実践する。	書き読み取る力を向上させるために、読書活動の充実を図る(10月の読書月間の実施)。 必要感のある課題設定の研究(随時) 思考・判断・表現に係る支援の方法の研究(随時)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)